

「将来の電力需給シナリオに関する検討会」の設置について
(案)

国や本機関による長期脱炭素電源オークション等の円滑な実施や、供給力の維持・開発を行う事業者が計画的に電源開発を進める上での参考となる 10 年超先の電力需給のあり得るシナリオについて、専門的かつ多様な視点で検討を実施できる体制を構築すべく、「将来の電力需給シナリオに関する検討会」を以下のとおり新たに設置する。

1. 名称

将来の電力需給シナリオに関する検討会

2. 検討事項

10 年超先の電力需給のあり得るシナリオの策定

3. 委員

検討事項に知見を有する中立者から選定する。

4. 手続き

- ・ 委員への委嘱状の発行
- ・ 委員からの秘密保持、情報の目的外利用禁止に関する誓約書の提出

5. 委員の任期

- ・ 委員の任期は 2023 年 11 月 1 日から 2025 年 3 月 31 日までとし、その後は 1 年毎に再任されることができる。

6. 検討会の幹事部署

企画部とする。

以 上

【添付資料】

別紙：将来の電力需給シナリオに関する検討会の概要

「将来の電力需給シナリオに関する検討会」の 概要について

2023年10月

電力広域的運営推進機関
企画部

【背景】

- 2022年8月に開催された**GX実行会議（議長：内閣総理大臣）**において、**電力システムが安定供給に資するものとなるよう、制度全体を再点検する**ことが示された。
- これを受け、**電力・ガス基本政策小委員会**において供給力確保の在り方について議論され、この議論を踏まえ、2023年4月に「**将来の電力需給に関する在り方勉強会**」が設置された。本勉強会において、安定供給の確保や2050年カーボンニュートラルの実現の観点から、課題となり得る事項等について関係事業者等からヒアリングが行われた。
- 2023年8月、本勉強会において、「**今後は、議論の場を電力広域的運営推進機関に移し、10年超先の電力需給のあり得るシナリオについて策定を進める**こととする。」と整理されたところ。

【目的】

- 今後、本機関にて実施するシナリオ策定にあたっては、「有識者や外部機関の知見など、多様な視点を取り入れながら検討を進める。」ことが求められていることから、**有識者を委員とする「将来の電力需給シナリオに関する検討会」（以下「検討会」という。）を設置し、専門的かつ多様な視点で検討できる体制を整える。**
- 検討会の**検討結果**については国、本機関、事業者等の関係者間で共有し、国や本機関による長期脱炭素電源オークション等の円滑な実施や、供給力の維持・開発を行う事業者が計画的に電源開発を進める上での参考とすることを目的として検討を行う。

シナリオ策定に向けた方向性（案）

本勉強会では、有識者や事業者からのプレゼンテーションを通じて、将来の電力需給に関する在り方についての議論を深めるとともに、安定供給の確保や2050年カーボンニュートラルの実現の観点から、課題となり得る事項等について、御意見をいただいた。

今後は、議論の場を電力広域的運営推進機関に移し、10年超先の電力需給のあり得るシナリオについて検討を進めることとする。

1. シナリオの用途・目的

- 10年超先の電力需給のあり得るシナリオを国、電力広域的運営推進機関、事業者等の関係者間で共有し、国や電力広域的運営推進機関による長期脱炭素電源オークション等の円滑な実施や、供給力の維持・開発を行う事業者が、計画的に電源開発を進める上での参考とすることを目的とする。
- なお、策定するシナリオは、一定の仮定を置いて導き出した基礎情報であり、政府の目標と直接関係するものではない。

2. シナリオ検討の時間軸

- 建設のリードタイムが10年を超える電源も存在することや、シナリオの検討にあたっては、2050年カーボンニュートラル等も考慮する必要があることから、例えば20年程度先として2040年、2050年の2時点を目途として検討を進める。
- 策定したシナリオと実績に差異が生じうるため、本シナリオは事業者の投資回収予見性への寄与等も考慮し、5年毎を目処に見直しを行うこととするが、状況によっては早期に行う。

■ シナリオの時間軸

- 建設のリードタイムが10年を超える電源も存在することや、2050年カーボンニュートラル等も考慮する必要があることから、シナリオ検討の時間軸として、2040年及び2050年を対象とする。
- 今回策定するシナリオは、今後の状況変化を踏まえて5年毎を目処に見直すことを基本とし、必要に応じて、より早期の見直しを行う。具体的な見直しの時期、体制等については本機関にて今後検討する。

■ シナリオ検討におけるエリアの考え方

- 将来的にはエリア別のシナリオを策定することを念頭に置きつつ、検討会においては、全国のシナリオを策定する。

■ シナリオ検討の粒度

- 将来的には調整力に関する検討を行うことも念頭に置きつつ、検討会においては、kW・kWhバランスを検討する。

3. 今後のスケジュール

■ 検討会を10回程度開催し2025年3月末までの検討内容とりまとめを目指す。

